

## ATR-X 症候群モデルマウスの評価と 症状改善薬の探索

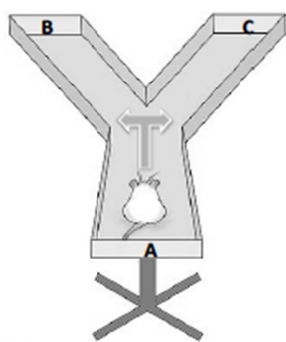
塩田 倫史、澤井 優広、  
小野里 美咲、山口 航矢、福永 浩司

東北大学大学院 薬学研究科 薬理学分野

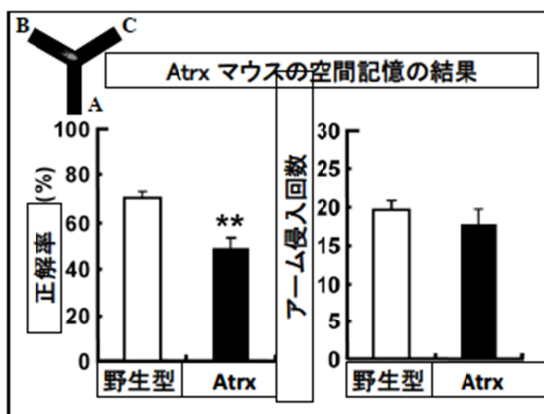
### 動物で精神運動を評価する方法

- ① Y-字迷路試験 (注意力と空間記憶)
- ② 新奇物体認識試験 (認知機能)
- ③ 受動的回避行動試験 (長期記憶)

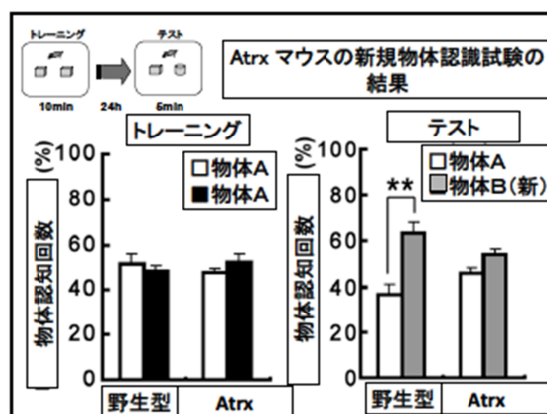
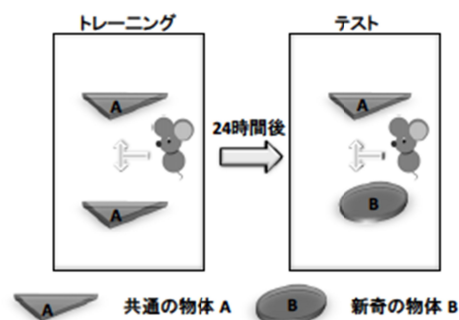
### Y字迷路試験 (注意力と空間記憶)

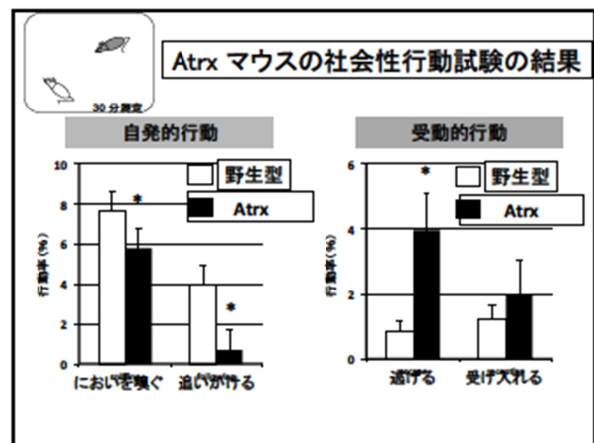
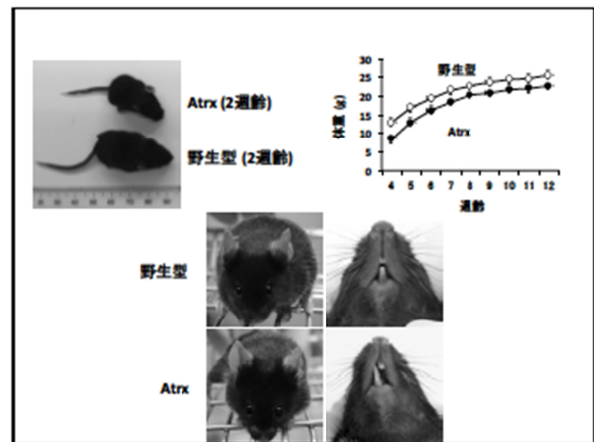
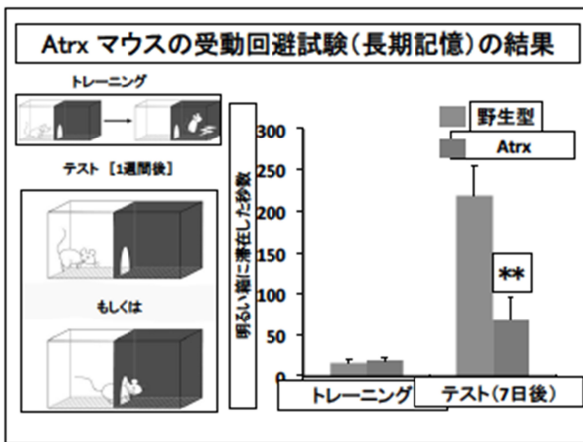
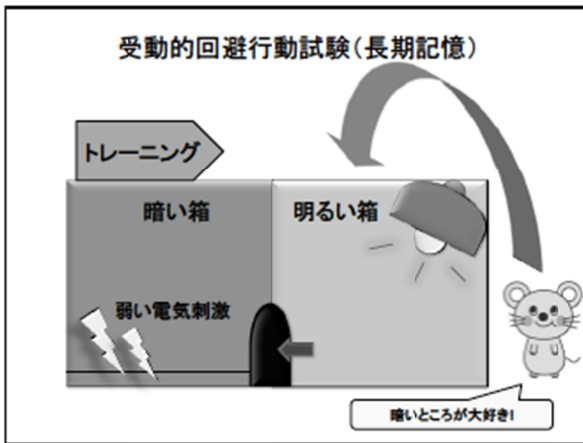


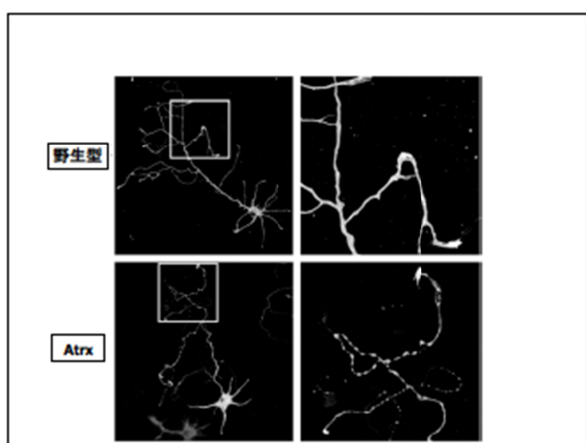
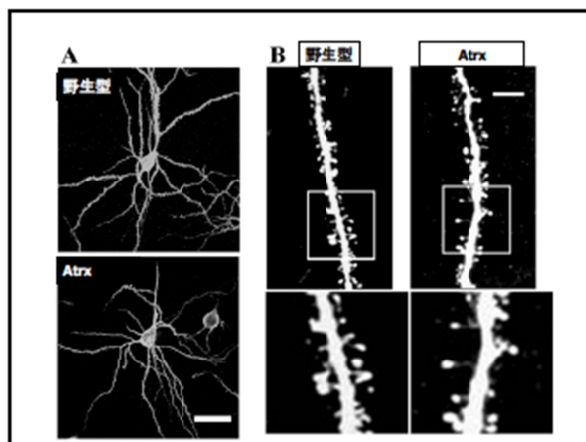
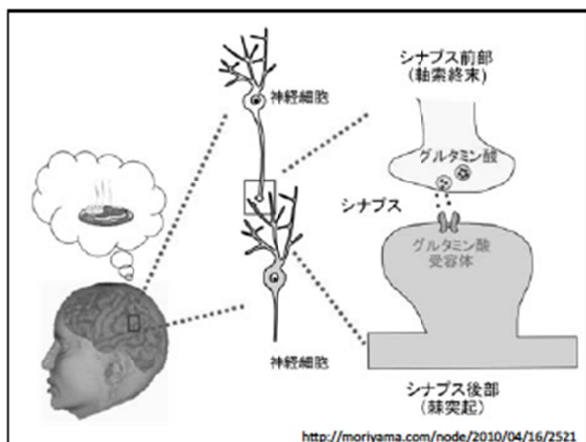
参照:脳科学辞典 <http://bsd.neuroinf.jp/wiki/%E8%B7%B7%E8%B7%AF>



### 新奇物体認識試験 (認知機能)







まとめ①

Atrx モデルマウスはヒトの症状の一部を示した。

↓

Atrx モデルマウスで症状改善薬の探索をすることができる

神経可塑性をターゲットにした創薬科学研究  
東北大学大学院薬学研究科・薬理学分野

Department of Pharmacology, Tohoku Univ. Grad. Sch. Pharm. Scis

謝辞

東北大学大学院 薬学研究科

福永 浩司 先生  
澤井 優広 (M2)  
小野里 美咲 (B4)  
山口 航矢 (B4)

京都大学 医学研究科 和田 敬仁 先生

京都大学 iPS細胞研究所 井上 治久 先生